



南方書局
新刊案内

工芸の未来を築く、
知的ネットワークを
目指して。



創刊号

『工芸史』

一号

編集：工芸史研究会

これからの「工芸」のために

2024年4月中旬 発売

若手の研究者を中心に発足された、研究者や実作者、工芸に携わるすべての人が
総合的な研究発展を目指す「工芸史研究会」による、初の機関誌『工芸史』を発売。



このたび工芸史研究会は、機関誌『工芸史』を発刊します。

二〇二一年三月に設立した当会では、
陶磁、漆工、染織、金工、木工、ガラスなど、
さまざまな素材の工芸品を扱う学芸員、研究者、作家が意見交換を行っています。

これまでの工芸に関わる史的研究は、主に素材によって分かれ
深められた領域を軸として進められてきました。しかし文化財・作品としての
保存・研究・展示、また技術の継承、原料の生産……
現代の工芸は、素材を問わず多くの共通の課題に直面しています。

当会は、これらの問題について共に話し、
各領域における研究動向や手法を共有し、
会員の研究を発展させるための恒常的な場を求め、
主に若手の有志を募り発足しました。

創立より三年を記念し、これまで実施した研究会や講演会のアーカイブのため、
そして柔軟性の高い発表・議論の場をさらに整えるべく、
本誌を発刊することとなりました。

…

工芸は地域、時代を問わず、人の手により生み出され親しまれてきました。

人々のライフスタイルが変容し、工芸と人の関係もまた少しずつ
変化しています。当会は工芸をとりまく文化を後世に伝えるため、
情報交換および研究の場となり、交流の基盤を築くことを目指しています。

『工芸史』が、その推進力になることを祈念致します。

工芸史研究会運営



目次

- ・ 『工芸史』創刊のあいさつ
- ・ 工芸史研究会 憲章
- ・ 活動記録

- ・ **畑中 咲輝** <会員作品> (陶芸) ▶ 工芸史研究会の作家会員である
畑中咲輝の陶芸作品をカラーページで掲載。

第一部
これからの『工芸』 ▶ 「工芸」・「工芸史」という茫洋と捉えにくい
領域を考える指針として、寄稿論考を収録。

- ・ **佐藤 道信** 近現代における「工芸」の展開
- ・ **水本 和美** 考古学と美術工芸史研究 ▶ 東京藝術大学の佐藤道信氏は、
明治時代における「工芸」概念の成立と
その後辿った展開と工芸の未来、
そして水本和美氏は、前近代の工芸に関し、
出土品／伝世品の探究という表裏の存在である
考古学と工芸史の協働の可能性について述べた
必読の二編となる。

第二部
会員の活動・論考 ▶ 各分野を専門とする会員の論考（研究ノート・
調査報告・研究動向紹介）を掲載。

(キーワード)

- ・ **神野 有紗** 澤部清五郎原画《春郊鷹狩》
《秋庭観楓》の制作に関する一考察 ○澤部清五郎 ○浅井忠
○図案 ○川島織物
○美術染織
——浅井忠原画《綴織壁飾 狩の図（武士山狩）》
制作過程との比較をめぐって
- ・ **高 家融** 清朝工芸における「丸文」の受容と展開 ○「丸文」 ○清朝
○天啓赤絵 ○日中交流
—天啓赤絵と清朝宮廷コレクションを視座として—
- ・ **巖 由季子** <調査報告> ○漆継ぎ ○陶磁器修復
○茶道具
江戸時代中後期における陶磁器補修の事例
- ・ **廣谷 妃夏** <研究史> ○経錦 ○染織品
○古代中国 ○織機
中国「経錦」研究の百年

- ・ 付録： 「工芸」関連展覧会年表（関東編、2008~2023） 工芸に関わる展覧会記録



Table of contents for the book 'Industrial History' (『工藝史』一冊), organized by page number (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100).

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66
67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84
85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96
97	98	99	100		



寄稿者情報 =

佐藤 道信 (SATOU Doushin)

板橋区立美術館、東京国立文化財研究所を経て、
2024年2月現在、東京藝術大学美術学部教授。

主著に『〈日本美術〉誕生—近代日本の「ことば」と戦略』（講談社、1996）、
『明治国家と近代美術—美の政治学』（吉川弘文館、1999）、
『美術のアイデンティティ—誰のために、何のために』（吉川弘文館、2007）ほか。

水本 和美 (MIZUMOTO Kazumi)

新宿歴史博物館、日比谷図書文化館を経て、
2024年2月現在、東京藝術大学大学院美術研究科保存科学研究室 非常勤講師。

江戸城跡など都心部の遺跡から、都市・江戸東京、陶磁器、金属を考えている。

主著に『17世紀の肥前色絵磁器の意匠と技術の躍進事情』（科研費成果報告、2018）、
共著に『鍋島 誕生期から盛期作品まで：明暦三年〈1657〉被災、
江戸城跡出土の初期鍋島陶片』（創樹社美術出版、2011）ほか。

書籍情報 =

工芸史 一号

編集：工芸史研究会

判型：縦170×横251mm
(B5判変形)

頁数：224頁
製本：ソフトカバー

発行：南方書局
発行者：富澤 大輔

定価：3080円（税込）

2024年3月31日
初版発行

題字：柯 輝煌
書籍設計：明津設計

ISBN
978-4-9912385-5-0

工芸史研究会

<http://www.s-f-historyofcrafts.com>

